



還暦で、なお明朗闊達

広島経済同友会は新しい代表幹事に、森信建設の森信秀樹社長(60)を内定した。4月23日の総会で正式に就任する。当初は広島電鉄前社長の越智秀信氏が候補に挙がっていたが、越智氏が突然、社長を解任されたため、1月の幹事会で選任を見送り、改めて代表幹事経験者らで選考作業を進めた結果、森信氏を選んだ。代表幹事は2人制で、任期は2年。慣例として2期4年を務め、2期目は筆頭代表幹事と位置付けられる。現体制の高木一之筆頭代表幹事(73)は退任し、代わって永野正雄代表幹事(68)が筆頭になり、



総会をもって永野―森信体制がスタートを切る。

経済同友会は、企業経営者らの個人参加を原則とし、全国44の都道府県にある。広島の会員数は全国4位の765人になる。代表幹事は地元の有力企業から選ばれることが多い。1997年からの歴史

の代表幹事(肩書は就任時・敬称略)は、

田村鋭治(広島信用金庫理事長)

有澤式保(テレビ新広島社長)

大田哲哉(広島電鉄社長)

角廣勲(広島銀行専務)

山本一隆(中国新聞社副社長)

深山英樹(広島ガス社長)

を経て、現体制の高木(広島信用金庫会長)―永野(テレビ新広島社長)と続く。

森信建設は1891年(明治24年)の創業で、地元業界では最古参。子会社で企画部門のアーバンリファインと合わせて従業員数は33人。

「同友会の大先輩から(代表幹事を)打診された時は、まさに青天のへきれき。とても無理だと、あれこれ断るための理由を並べたのですが、先輩の大きな圧力で退路をふさがれました。引き受ける以上は全力を尽くします。わが社からお金も、人も出すことができないうが、小さな知恵を絞り、たくさん汗を流す覚悟です。微力ながら、永野代表幹事を支えていきたい」

森信氏は、同志社大商学部卒。大阪の建築専門学校で学んだあと、衣料問屋に3年勤め、1980年に森信建設に入社。83年専務、91年7月に設立したアーバンリファイン社長、12月に森信建設の4代目社長に就く。昨年5月に中区の自社ビルに開設したグループホームまでしこ富士見町の代表も務める。中小企業診断士と一級建築士の2つの資格を持つ。公職も多い。広島

県交流・定住促進協議会の副会長、ひろしま暮らし支え隊事務局長、広島県人事委員会の委員ほか、広島市未来都市創造財団、広島国際青少年協会、NPO法人ひろしま環境研究会で理事を兼務。91年度広島青年会議所の理事長を経験し、人脈も広い。

同友会は97年入会し、2003〜07年に「広島県を考える委員会」の委員長を務めた。ストップ・ザ広島県の人口減少を主題に、実りあるセカンドライフの選択・年金転入者6万人計画などを提言。それが当時の藤田県知事の目に留まり、県庁内に交流定住促進室が設置された。竹原、呉、福山市などで活動を展開し、その延長線上で現在も県関係の公職を務める。還暦を迎え、なお明朗闊達である。負けん気は強い。「決して言いつ放しで終わらせることがない、率先垂範のリーダーシップを発揮するタイプ」とは周囲の評。広島に新風を吹き込んでもらいたい。代表幹事の任期中、2016年に同友会は創立60周年を迎える。



1994年9月17日 第三種郵便物認可
2013年3月28日発行(毎木曜日発行)
第63巻 第12号 通巻2861号

購読料 1ヵ月575円(消費税込)
印刷所 株式会社 中本本店
編集人 本 山 茂

発行所 ©(株) 広島経済研究所
本社 広島市中区立町1-24 有信ビル6階
TEL:082(254)444 FAX:082(254)4626



スタピット

兄は東京、私は広島

広島経済同友会は、4月23日の総会で森信建設の森信秀樹社長（60）が代表幹事に就任する。代表幹事は2人制で、筆頭になる永野正雄代表幹事（テレビ新広島社長）との新体制がスタートする。

森信建設は1891年創業の老舗。森信家の長男茂樹氏は京都大法学部を卒業後、大蔵省（現・財務省）に入省。主税局総務課長、東京税関長、財務総合政策研究所長などを経て、2006年退官。

現在は中央大法科大学院の教授、東京財団上席研究員など要職を兼務。それで次男の秀樹さんが1991年に森信建設の4代目社長に就いたが、実は、学生時代に4代目が内定していたという。同志社大商学部へ進み、京都大の学生だった兄とと

もに京都で2年間過ごしたが、兄から「俺は東京で頑張る。おまえは広島で家業を継いで頑張れ」と。卒業後それぞれ別の道へ進むが、「随分と前のこと。県か市かの首長選をめぐり、広島の方界人の方が兄茂樹に出馬を打診したところ、「私は弟との約束を守りたい」と。同友会の代表幹事に内定したことを伝えたら、「自分もうれしい。頑張りなさい」と喜んでくれました」